

がいこくせきけんみん かいぎ だい き だい かい かいぎ ぎじろく
外国籍県民かながわ会議（第13期・第9回）オープン会議 議事録

かいさいび れいわ ねん がつ にち にちようび
開催日：2026（令和8）年3月8日（日曜日）

ば しよ ひがしちようしゃ かいかいぎしつ
場 所：東庁舎 11階会議室

1 かいかい ふくいんちよう しょういん
開会（オオシロ副委員長、蔣委員）

かいぎ せつめい
会議のルールについて説明した。

2 がいこくせきけんみん かいぎ しいんちようあいさつ りゆいんちよう
外国籍県民かながわ会議 委員長挨拶（柳委員長）

- わたし きよう かい かいぎ かせ ていげん かいだい
・ 私たちは、今日まで7回の会議を重ねてきた。いろいろな提言の課題
にか かながわけん じようきよう ていげん ひつよう
に係る神奈川県の状態やどのような提言が必要とされているかについて、
かながわ こくさいせいさくすいしんこんわかい しいん いけん うかが さまざま まな
かながわ国際政策推進懇話会の委員に意見を伺い、様々なことを学びな
がら かんが ていげんそあん
考え、提言素案をまとめている。
- たぶん かきようせい む しこう ひつよう
・ 多文化共生に向けて、思考をアップデートすることが必要である。
- かんが さくせい かいだい だいじ かいぎ つく あ きようせい
・ ともに考え、作成する過程が大事。この会議がともに作り上げ、共生
する時間になればよい。

3 じむきよく だいひようあいさつ まつもとこくさいかちよう
事務局 代表挨拶（松本国際課長）

- いん みなさま たいへんねっしん と く かんしゃ
・ 委員の皆様には、大変熱心に取り組んでいただき、感謝する。
- かながわけん ひじよう こくさいしよくゆた ちいき ほんかいぎ
・ 神奈川県は非常に国際色豊かな地域であり、本会議ではこれまでも
きちよう ていげん しさく じつげん
貴重な提言をたくさんいただき、施策の実現につなげてきた。
- たぶん かきようせいしさく じつげん けんみん みなさま ごりかい ごきようりよく ふかけつ
・ 多文化共生施策の実現には、県民の皆様の御理解・御協力が不可欠で
あるため、活発な御意見や御質問をいただければありがたい。

4 ていげんそあん かん せつめい
提言素案に関する説明

ふくいんちよう しょういん
（オオシロ副委員長、蔣委員）

- かいさいしゆし しんこうほうほう せつめい
・ 開催趣旨と進行方法について説明した。

(1) せいかつこうじようぶかい せいかつこうじようぶかいいん
生活向上部会（生活向上部会委員）

はつびようしりよう もと せつめい
発表資料に基づき、説明した。

- (2) 情報部会（情報部会委員）
発表資料に基づき、説明した。

5 参加者からの質問、意見交換
(オオシロ副委員長、蔣委員)

- 話し合いでの注意点について、説明した。

(1) 教育（国際理解教育、高校入試、母語・母文化教育等）
(参加者)

- そもそも、生活上部会と情報部会の2つに部会を分ける必要があるのか。相互に重複している。
- ③の在県枠をこれ以上拡大したら、現場がもたない。教育現場のことを調べたのか。枠を拡大して先生はやっていけるのか。現場を理解した上で提言してほしい。

(参加者)

- ME-net の声を聞きながら提言案を作ってきたというが、現場の先生と話し合う検討会を設けるべき。

(参加者)

- 外国人の生徒は増えていると思うが、かながわ国際施策推進指針によりデータの裏付けをしたほうが良い。
- ②の母語教育は、日本語、英語に加えて母語と、3つの言語を学ばなければならないので、当事者にとって厳しいのではないか。

(参加者)

- 日本の場合は、英語は大学受験のために必要。

(参加者)

- 母語は、外国人にとってはアイデンティティであり、生活する上で必須。

(参加者)

- アメリカで暮らしていた。日本政府は移民を認めないが、国や神奈川県はJSL（「第二言語としての日本語」カリキュラム）を作り、日本語を学んでもらえばよい。

さんかしや
(参加者)

- ・ 日本語教育をボランティアに任せているが、ボランティアは善意であり限界がある。システムではないので、行政がシステムを作るべき。
- ・ 登録日本語教員がバックアップをすればよい。
- ・ 日本語学習と国際交流をボランティアに任せている。

さんかしや
(参加者)

- ・ 来月、娘が小学校に入る。学校のことをわかっていないので、よい情報があれば教えてほしい。

りゅういんちやう さんかしや
(柳委員長、参加者)

- ・ 小学校入学前に、お知らせが来る。
- ・ 小学校の学級委員決め等は、じゃんけんの勝敗で決まる。

さんかしや
(参加者)

- ・ 文科省が教員の働き方改革をしなければならない。高校の現場は、過重労働に苦しめられている。在県枠を増やせというのは、気持ちはおかるが、現場は大変であり、問題は解決しない。
- ・ 小学校も週末に仕事をしない日はない。ずっと仕事をしている。子どもがかわいいから苦ではないが、残業も当たり前。外国人が上履きや赤白帽を知らないことも、教員は理解しなければならない。
- ・ 中原区でボランティアしているが、ボランティアが受け入れられる体制がほしい。

さんかしや
(参加者)

- ・ ④の関係で、マイナンバーカードと在留カードは令和8年度中に一体化される。手続を忘れることはなくなるのではないか。

さんかしや
(参加者)

- ・ ⑧の関係で、国際交流の場は必要だと思うが、イベントを実施しても外国につながる子どもも、日本人の子どもも集まらない。原因が分かれば、解決につながるのではないか。
- ・ 子どもたちに集まる習慣を与えていないからではないか。学校側は、個人的な集まりへの参加を促さない。
- ・ ②の母語教育をしても、生徒たちは呆気にとられるだけ。
- ・ 集まりに行こうと思うには、立場を替えて最初から作り直す必要がある。外国人の立場から考えるべき。

- ・ 32人1人が外国籍県民と言われても、普段の生活の中では、外国人と接しないので、外国人が何をしているか知らない。

(参加者)

- ・ ⑥の介護の件は、11期、12期で、提言を出している。国もパンフレットを作成している。これまでの提言と重複しているので、提言を出さなくてもよいのではないか。

(2) 交流・支援（交流イベント、災害時のネットワーク、メンタルヘルスケア等）

(参加者)

- ・ 多文化交流イベントの拡充を提言しているが、外国人の視点で参加したくなる交流はどのような内容か。

(バ委員)

- ・ アンケートを通して、良いイベントを企画しても人が集まりにくい状況は理解している。
- ・ 参加者と一緒に料理をするような参加型がよいかもしれない。

(参加者)

- ・ その場合、準備が大変であったり、申込人数が限られる場合がある。

(参加者)

- ・ 周知する方法をどのように考えているか。

(バ委員)

- ・ その質問は情報部会の関係になる。企画としては、イベントや勉強会もあり得る。

(韓委員)

- ・ 具体的な内容を検討中であり、深掘りの質問は早いかもしれない。

(参加者)

- ・ ターゲットの交流相手をどう考えているか。

(韓委員)

- ・ 例えば、あーすフェスタのような一般県民向けのイベントをイメージすると、ロケーションの問題か、中身の問題で人が集まらないのか。具体的なイベントのイメージは、これから検討する。

(参加者)

- 外国人問題がメディアなどで取り上げられることが多い。外国人のイメージを回復するにはどうすればよいか。データがあれば分かってくれる人も多い。
- 最近、障がい者のイベントに行ったが、一緒にイベントを行えばよい印象を持たれるのではないか。

はんいいん
(韓委員)

- よいアイデアであると思う。日本人に対して、外国人のよいイメージを作れるかもしれない。

さんかしや
(参加者)

- 李さんは、心理支援を提言としている。私も近い内容の提言をしたことがあった。お金のかからない方法をとりたい。
- MIC の医療通訳のように研修を受講してもらい、病院で悩み事を聞くことは可能か。

さんかしや
(参加者)

- 医療関係の通訳にあたると思われ、責任を持ってない。

さんかしや
(参加者)

- 心理支援は聞くだけで、責任はない。

さんかしや
(参加者)

- 20年前に医療通訳をしていたが、カウンセリングを勉強していないと答え方ひとつで相手が傷つくこともある。

はんいいん
(韓委員)

- 時間をかけて専門家になった物に、通訳の責任、スキルの問題も考え、ボランティアでよいのかという考え方もある。

りいいん
(李委員)

- 当事者同士の助け合い団体を想定している。その人たちと話せば、問題の一部が解決する互助会のようなイメージを持っている。

さんかしや
(参加者)

- 外国の人がお互いに相談し合える仕組みはとてもよい。

さんかしや
(参加者)

- 交流イベントに人が来てくれないという問題は、同様に感じている。また、防災関係で自治会町内会の問題は複雑であると認識している。

はんいいん
(韓委員)

- 地縁団体が、外国人まで担うには様々な課題がある。個々が持っている情報は部分的であるため、大使館や外国関連団体が組織同士にながっていくことが重要。まずは、定期的に顔つなぎから始めたい。

(参加者)

- 同じ国や団体同士でも知らない情報がある。

(韓委員)

- 外部から見ると、同じ国の団体間では連携がうまくできていると思いがち。

(参加者)

- 県で外国人向けの防災イベントがあると来場者が増えるかもしれない。

(韓委員)

- まとめて訓練しても、地域に戻ると状況は個々。

(3) 暮らし（高齢化への対応、運転免許・在留カードの更新等）

(参加者)

- 資料1の「県内外国人の年齢別在留資格」のグラフを見て、おかしさがわからなければ問題。20代と老後とでは、在留資格が異なっている。老後になってからではなく、来日後から老後のことを考えたほうがよい。日本でどんな老後を迎えられるか、情報発信をすることが大切。在留資格のことも踏まえた提言にしてほしい。

(参加者)

- 多文化高齢社会ネットかながわ（TKNK）で作成したやさしい日本語の認知症すごろくに小学生が興味を持った。年をとるのはどういうことか、人生をどう過ごしていくかについて、子どものときから考えることは大事。

(参加者)

- 行政書士として、日本にいる外国人が介護やライフステージを考えることは大事だと思う。高齢化、滞在が長期化する外国人にどう情報発信するかが課題。セミナー等で情報発信できるとよい。

(参加者)

- 生活オリエンテーションが一番大切。40歳から徴収される介護

ほけんりょう にほん いろいろ せいど じょうほう うま つた
保険料をはじめ、日本の色々な制度の情報を上手く伝えられるとよい。

(参加者)

- ・ チャートのアイデアはとてもよい。ウェブで見られるようにしてはどうか。

(倉橋委員)

- ・ 子育てチャートのように、高齢者版のチャートを作り、少なくとも40歳から老後について知っておいたほうがよい。

(参加者)

- ・ 自身の将来的な在留資格を複数考えなければ、老後に備えられない。外国人に「生活でいっぱいなので考えられない」と言わせるような状況であってはならない。小学生のときから教えていくことはよい。情報は既に多くあり、発信の方向性が大事。提言はとてもよい視点。

(参加者)

- ・ セミナー等を通して耳で聞く情報と文書の両方が必要ではないか。

(参加者)

- ・ 入管庁が必要な情報を上手くまとめた生活オリエンテーション動画を作成しているが、存在を知らない外国人も多くいる。発信に問題がある。また、外国人向けには、文字よりイラストが多めの方が伝わりやすい。

(王委員)

- ・ 情報がある場所を外国人自身がまず知ることが必要。

(参加者)

- ・ 日本人でも老後についてよくわかっていない場合がある。オリエンテーションしたとしても、効果はどうか。

(参加者)

- ・ 差し迫った事情でない限り、セミナー等に来ない人は来ない。地域包括支援センターと連携して進めてはどうか。新しい視線を地域に取り入れ、ともに進む多文化共生の拠点としての入口という観点からも必要である。

(参加者)

- ・ 情報発信はとても重要で、イベントや支援制度を作っても、外国人

に伝わらなければ意味がない。

(参加者)

- ・ 発信側だけでなく、受け取る側の関心の喚起も重要となる。

(参加者)

- ・ 紙媒体だけでなく、AIなどを活用したデジタル化も必要である。

(参加者)

- ・ 外国人同士だけでなく、日本人と外国人のつながりも重要となる。

(参加者)

- ・ 地域の自治会に外国人は参加しているのか。まずはそこから情報を得るのではないか。

(4) 情報 A (進学や生活のルール等)

(参加者)

- ・ 多文化交流イベントの拡充を提言しているが、外国人の視点で参加したくなる交流はどのような内容か。

(参加者)

- ・ 外国籍県民が登録する際、何を登録するか。生活オリエンテーションの情報をセットとして住民票と一緒に周知したらよいのではないか。

(参加者)

- ・ 情報を発信しても保護者は仕事が忙しく、なかなか冊子や動画を見ることが難しい。中学1年生から少しずつ説明することが必要。
- ・ 自分で検索すると難しいときもあるため、学校などの皆が集まりやすい時に情報周知が出来るとよい。

(参加者)

- ・ 中学1年生時点で知らない人が多い。中学3年生から考え始め、前もって準備することを知らない外国人も多い。軽い感覚で思っている。
- ・ 危機感を持ってもらう必要がある。危機感がない保護者により、単位を落としてしまう。

(参加者)

- ・ 分かりやすい資料を作り、外国人に見てくださいと伝えていたとしても、今は大丈夫となってしまう。届け方のアイデアについて知りたい。

(モラレス副委員長)

- ・ 自分の言語や使っているツールだと情報が届きやすい。どのような制度を知りたいか。

(ストーリー委員)

- ・ 届ける情報の量にもよる。

(参加者)

- ・ 外国人の方を受け入れている高校で事務員をしている。
- ・ 英語、中国語、ベトナム語、スワヒリ語話者もおおり、まさにこの問題に思いつまされている。
- ・ 外国人の方向けに進学支援等を行っているが、説明をしても伝わらないこともある。

(ストーリー委員)

- ・ 生活オリエンテーションで何か出来るかもしれない。
- ・ 情報発信等について日頃から問題に感じることはあるか。

(オオシロ副委員長)

- ・ 教育情報と生活情報が届いていないことについて取り扱っているが、疑問があれば教えてほしい。

(モラレス副委員長)

- ・ 団体の名称自体を知らない人がいる。特に、NPO等を見つけることが大事。オンラインやオンデマンドで情報発信ができるかもしれない。
- ・ あーすフェスタでの周知もできる。

(参加者)

- ・ 川崎市役所や県のホームページ、日本語教室、メール、あーすフェスタなどで情報を得ている。

(モラレス副委員長)

- ・ 色々なところからの情報発信を通して知る機会がある。

(参加者)

- ・ 地域ケアプラザで福祉について相談する人が増えているが、ポルトガル語では対応出来ない。
- ・ 外国人が困って来所しても、日本人側がどこに繋がればよいのか分からない現状がある。
- ・ それぞれの機関に、情報がある場の存在を知らせていくことが大切。

(オオシロ副委員長)

- ・ NPO や県と連携し、NPO がある市などを知れるとよい。

(参加者)

- ・ 地域に引っ越してきた方に日本語教室をどのように知ったか聞くと、市役所から教えてもらったと言う。
- ・ 役所は、外国人が最初に人と会うポイントだと思ふ。
- ・ 特に、市役所の国際関係課から教えてもらったという話を聞く。

(ストーリー委員)

- ・ カナダでは、そのような文化はない。今はオンラインで情報へたどり着くと思ふが、日本語が出来なければ案内が分からないので、英語のページも作る必要がある。

(モラレス副委員長)

- ・ 英語が出来なくても、今は翻訳機を活用出来る。

(ストーリー委員)

- ・ 日本語を話せない人には通訳も必要である。

(オオシロ副委員長)

- ・ 市役所には、場所によって、通訳がいる。

(ストーリー委員)

- ・ フェスティバルなどでの周知はどうか。

(参加者)

- ・ イベントだと楽しいが勝るため、難しい。

(オオシロ副委員長)

- ・ 現実的なのは、県と企業が連携することが必要。

(参加者)

- ・ 中国食材店では、ラインでグループを作っている。エスニック食材店にはコミュニティがあるため、情報を周知させてもらえたらよい。

(オオシロ副委員長)

- ・ 情報機器が得意ではない世代を排除してしまう可能性がある点で、オンラインは難しい。

(参加者)

- ・ 外国人の方にとってよい、正しい情報を持つていくことが大切である。

- ・ コミュニティに入り込んで情報共有すればよいのではないか。

(5) 情報 B (進学や生活のルール等)

(参加者)

- ・ 高校受験に関する専門用語は、やさしい日本語にしても難しく、やさしい日本語で説明しようとするとも情報量が増えてしまう。そもそも制度が難しい。そのため、すべての情報を伝えようとするのではなく、その人に必要なものをピンポイントで伝える資料、それに一般的に必要な情報をいれた資料をセットで提供できるようにできればよい。資料の精度もそうだが、個別のコンサルティングを行って対応できるとよい。

(参加者)

- ・ やさしい日本語や多言語化された資料は多くあるが、必要な資料が必要な人に届いていない。個別相談などもあるので、やっていることが届けば、というところがある。そのため、基本的なことを伝えるために、生活オリエンテーションが大事。川崎市では、転入等の届出をした際に、沢山の資料を渡しているが、量が多すぎて目を通す時間がないという声をきく。外国人の方の少し生活が落ち着いた段階で生活オリエンテーションを行い、復習ができるとよい。

(参加者)

- ・ 日本人との交流は難しい。

(蔣委員)

- ・ 生活の中で地域の活動があるので、参加していくのがよい。参加しやすさということもあると思うが。

(参加者)

- ・ 障害者手帳の話も出たが、分かりやすい案内が必要だということを変えて思った。県のホームページにやさしく載せるなどの工夫が必要。私は外国人の子どももよく来ることも食堂の手伝いをしたりするのだが、受験の資料や就職の資料を外国人の親が分からずに持ってくる人がわりといる。情報が大事である。

(参加者)

- ・ 福岡県が作っている「FUKUOKA IS OPEN」というものがあり、福岡県は

「とりあえずここに聞いてください」という形に^{かたち}して、ここに^き相談すると、しかるべき^{そうだん}相談先に^{そうだんさき}振り分けてくれるような^し仕組みになっている。

(蔣委員)

- ・ 一人だと^{ひとり}情報を集めるのが^{むずか}難しいので、^{しゅうやく}集約してある^{ばしょ}場所や^き聞けばわかる^{じゅうよう}ところは重要。

(参加者)

- ・ 生活^{せいかつ}オリエンテーションについては、^{かながわけん}神奈川県^{とくじ}独自のものを^{かんが}考えることも^{じゅうよう}重要だが、^{しゅつにゆうこくかんりちよう}出入国管理庁では^{どうが}そうした^{たすうこうかい}動画を^{たすうこうかい}多数公開しており、^{がいこくじん}外国人の方には、^{かた}それらを^{にち}1日1つずつ^み見るということをしてもらうとよい。また、^みここを見ればわかる、^{じゅうほう}というような^{しゅうやく}情報を^{じゅうほう}集約した^{ばしょ}場所と^{しゅうち}周知が^{ひつよう}必要。

(蔣委員)

- ・ ^{かながわけん}神奈川県^{しゅつにゆうこくかんりちよう}のホームページからは^と出入国管理庁のページなどにも^と飛べ^{しちようそん}るが、^{じゅうほう}市町村それぞれの^{けんとう}情報もある^{ひつよう}ので、^{けんとう}検討が^{ひつよう}必要。

(参加者)

- ・ ^{じっさい}実際に^{とう}ライフステージ等による^{もんだい}問題に^{ちよくめん}直面しないと^{ちよくめん}わからない。^{こじん}個々人に^あ合わせた^{じゅうほう}情報を^{ねんれい}年齢や^{ぞくせい}属性によって^{よそく}予測し、^{わた}渡す^{じゅうほう}情報を^{かんが}考^{せいさ}えて^{せいさ}精査する^{ひつよう}ようなことが^{ひつよう}必要であり、^{つど}その都度、^{ないよう}そうした^{ないよう}内容の^{ほんやくばん}翻訳版を^{ていきよう}提供する^{ていきよう}などが^{ていきよう}できればよい。

(蔣委員)

- ・ ^{こじん}個々人の^{じゅうきよう}状況により^{ていきよう}提供する^{ないよう}内容が^{ちが}違い、^{ちいき}地域や^{ねんれい}年齢によって^{こと}異なる^{こと}。

(参加者)

- ・ ^{がいこくじん}外国人の^{ていじゅうか}定住化が^{すす}進んでいることから、^{へんか}ライフステージの^{ともな}変化に伴^{ひつよう}い^か必要な^かことが^{じんせい}変わるため、^{おう}人生に^{じゅんび}応じた^{ひつよう}準備をする^{ひつよう}ことが^{ひつよう}必要になる。^{おおわく}そうした^{ていじ}大枠を^{ときどき}提示して、^{ひつよう}時々で^{こま}必要な^{じゅうほう}細かい^{てきぎつ}情報を^{てきぎつ}適宜^{てきぎつ}詰めて^{てきぎつ}いく^{かたち}ような^と形を取ればよい。

(蔣委員)

- ・ ^{ぎょうせい}行政に^{たよ}だけ^{むずか}頼るのは^{むずか}難しい。^{がいこくじん}外国人が^{しゅうい}周囲の^{ひと}人にも^{はばひろ}幅広く^き聞ける^{じゅうきよう}状況が^{じゅうよう}重要であり、^{じぶん}自分にとっての^{げんざい}現在の^{じゅうほう}情報の^{ようひ}要否が^わ分かる^{ひつよう}ことも^{ひつよう}必要。

じむきょく
(事務局)

- ・ ライフステージによる変化で直面する課題やそこで必要となる情報は、日本人であってもそれぞれで、また、各段階でわたされる資料(例：妊娠出産時など)の量が多いものである。日本人ですら難しい・多いと感じるような資料については、まずその元の作成段階での精査や工夫が必要であり、その上で、外国人の方に対してどうか、という観点をもつことが大切。また、各ライフステージの当事者である日本人及び外国人であればこそ、そこで必要な情報や制度が分かるので、そうした資料作成の側に入ったり、また、コミュニティ間で情報共有や意見交換ができるとよい。

さんかしや
(参加者)

- ・ よい時代になったと感じる。今は携帯電話(スマホ)があるので、すぐに調べたり、聞いたり、翻訳したり出来る。昔は情報がない中、学校の先生や家族など周りの人に聞き、頑張る状態だった。今は聞けるところも増えた。

せい
(インターン生)

- ・ 高校受験制度や内申点など、日本人である自分が高校生のときでも理解ができていなかったことを考えると、外国の方には難しい。また、高校の情報や勉強方法などについても、学校でできるかという先生たちも忙しいのですべてをカバーするのは難しい。

しょういじん
(蔣委員)

- ・ 高校受験などは将来の人生を左右することになるので難しい。

まつむらいじん
(松村委員)

- ・ 受験の際など苦労したため、分かりやすい制度にしてほしい。

いじん
(ハリソン委員)

- ・ 人生ガイドのようなものは必要だと思うが、それを作ると量が多くなるので難しい。まとめたものに加えて、人間同士のやりとりをしていくのがよい。

さんかしや
(参加者)

- ・ 愛知県ではライフステージをまとめたものを既に出しているのに、神奈川県でも作れるとよい。また、障害や高齢のことは外国人の方もまだ考え等が及んでいないところもある中、認知症に係るやさしい

日本語のすごろくを作っている。相談のきっかけになればよい。

(参加者)

- ・ 最近、永住権の更新要件が厳しくなり、税金や年金の未払いでビザが認められないとなって相談にくるケースが増えている。こうしたことは、すでに困った段階になってからきても遅い・対処できない場合が多いので、先を見据えた準備が必要になる。

6 閉会

(オオシロ副委員長、蔣委員)

- ・ 様々なご質問やご意見をいただきました。
- ・ 柳委員長より本日のまとめを頂戴したい。

(柳委員長)

- ・ 様々なご質問やご意見をいただきました。
- ・ 日ごろから改善したいと思ってきたことを共有できたことを嬉しく思う一方で、より一層伝えていく必要があると感じた。
- ・ いろいろな方の話を聞きながら提言作成を進めてきたが、まだ学びが足りず、様々な立場や視点から考えていく必要があると感じた。
- ・ 皆さんから、様々な取組について積極的な言葉をいただけたことは、大きな財産だと思う。今後、御相談することもあるかもしれないが、皆さんと一緒に提言を作り上げていければと思う。

(以上)